

經濟週報

青島日本商業會議所

第百二二二號

中華民國特准掛號  
認爲新聞紙類  
大正十四年十月五日發行  
每週月曜日

一、月報  
報第五五號  
報每  
號漢口日本商業會議所

一、勞動時報八月號  
報社  
局第一  
部  
一、東洋水產新聞每  
號東洋水產新聞社

一、北京週報第二十七號  
報社  
一、月報  
報第一六號  
松山商業會議所

一、月報  
報第一九一號  
本埠  
報社  
一、月報  
報第六二號  
濟南實業協會

發行所 青島日本商業會議所

本號記事

- 隴海鐵路東路調查狀況(其十六)
- 青島港輸出花生及生油雜觀
- 張宗昌の金融整理方法
- 青島鮮牛肉輸出狀況(八月中)
- 青島魚市場水揚高(八月中)
- 膠濟鐵路營業狀況(七月中)
- 銀塊並爲替(自九月十九日至廿六日)
- 商況(同)
- (膠海關貿易統計表(八月中))

資料

隴海鐵路東路調查狀況

查狀況 (其十六)

第八章

第二節 徐州の生業

第一款 農業

當地方は從來阿片栽培地として盛大なるものあり徐州は一に阿片の大取引市場たりしが禁令發布後阿片の栽培中止は一時徐州の衰退を慮はしめたるものなり、此處に於てか省當局は地方人士と一致協力種々農業の復興に努力したる結果省立第二農事試驗場、省立蠶桑模範場、縣立農事試驗場、大彭市農會等の設立を見るに至り地方農耕の漸く盛なるに至れりその農産品の主なるものとして黄豆、小麥、落花生、高粱、玉蜀黍、棉花、芝麻、蔬菜等にして且つその副業としての畜牛、養蠶、養鶏は又當地繁榮の一助たるべきものなり

第二款 工業

當地の現在に於ける工業状態を見るに所謂洋式工場としての見るべきもの少く工業の發達實に遅々たり、然れ共その將來大觀市たる資格乏しき當地は更にその工業上より見るも亦大工業地たり得べからざる地なれど只蛋粉業、石鹼業、燐寸業、製粉業、榨油業、織布業として一部工業の發達は望み得るも亦以て大工業地たる

の素因をなす能はず今現有工業に就き見るに

一、蛋粉業

支那に於ける卵粉製造業の發達せるは最近のことに屬し日清戰前獨逸人にして漢口に於て二個の工場を設置するに端を發したるものなるが操業容易なる簡易工業にして大資本を要せず且つ原料たる鶏卵の甚だ豊富なるは目下の支那經濟状態に最も適合せる事業の一となり遂に支那各地重要地には到る所當工業の工場を見ざるなきに至り隴海沿線に於ける新設、増設工場も亦甚だ多く地方重要工業の一たるに至れり、今徐州に於ける卵粉製造工場を見るにその主なるもの三個あり同瑞公、晋康、宏祐昌之にしてその中前二者は共に土法製造により後者は洋式機械によるものなるもその規模大ならず然れ共當地に於ける鶏卵の集散量は之等工場

の需用に對し僅かに集散の一部を供給するを以て足り尙多大の移出能力あるに徴し將來尙ほ此種工業の増設を見るべし

二、織布業

本工業も亦簡易經營をなし得るものにして綿布の需用巨額に上る當中部支那一帯に於ける織布業は亦有望なる工業の一たり、然れ共當徐州地方には未だ大なる織布工場の存在するを見ず只省立第七工場

三、絹織物業

當地は阿片栽培禁止後省當局の獎勵と地方有力者の指導とにより各種農産物の栽培と共に桑園の栽培又盛となり當地に於ける絹糸練業漸く盛況に赴きつゝある現況にして目下その年産約重量六十万兩價格七万五千兩以上の生糸を出し居るもその生糸は繰り方大きくして單に縫糸を製

するに適するのみなるを考慮する時當工業は尙ほ一段の改善に努力するの必要あるものなり

四、電氣工業

當地に於ける電氣工業は他にその見るべきものなく只城内外に供する電燈業のみなり、本電燈會社はもと官營にして彼の復辟の首領張勳南京退去の際南京より移出せるものなりしが後官民合辦となし現今に於ては一般に配給をなし城内外にて十六燭光換算六千餘燈の配給をなし居れり

五、製粉工業

當地製粉業はその洋式機械によるものもなく悉く土法による磨坊製粉及移入機械粉を使用しつゝあり然れ共當地に於ける原料たる小麥の豊富なるは動力用石炭の豊富なるは交通の便と相俟つて將來必ず有望たる可き一工業なり然れ共工程そのものに於て複雑ならざる本工業は今後に於ける邦人着手の工業としては不適當なるものにして必ずや支那人の着手して利を見るものと思考さる

第三款 商業

津浦鐵路の中央點に位し今や隴海線の開通を見んとする當地は實に江蘇、山東、河南、安徽各省に對する通路の要衝にして又古來中部支那東方に於ける商業上、軍事上の一中心地たるの地なり然れ共當地は軍事交通の重要地たる一事は即ち又内亂の多き支那を背景とする當地の一大不幸にして筆者の實地調査の際の如き(大正十四年三月六日)孫岳の部下第二路司令部中將は二万の兵を率ひて此地に駐屯し當地の旅店の大部分はその宿舎或は事務所等に充當せられ客商の宿すべきは僅かに城内大新飯店一個あるのみ、而も奉直戰時に於ける吳佩孚の北方軍事輸送の際その大半の貨車廻りを止められたる津浦線は更に孫岳軍の輸送により更にその運輸機關の過半を奪はれ更に又汴洛鐵路の如きは戰前貨車五百八十輛機關車五

十輛を有せるも戰時勃發以來その軍事發に會ひたるもの及び津浦、汴洛兩路聯運契約により津浦線に廻送せられたる貨車の回收不能等により現有貨車數四十輛機關車數十七輛と言ふ驚くべき減少を來たしその貨物輸送は殆んど不可能なる有様なりき、斯くの如くにして戰爭開始後本年三月末日迄に於ける徐州は交通不便による商取引の自然的減少と軍隊駐屯により旅客來往減少と更に附近土匪の横行は彼の津浦、汴洛兩路特別貨捐名目の下に張宗昌軍費百二十萬元の資金徵達方法と相俟つて徐州の商業はその移出入取引共に中絶の有様となり人心恐々たるものありき、然れ共前述の如きは只その一時的現象にして決して永續すべきものに非ず必ずや其の恢復は遠きに非らず而も徐海線の完成を真近に控へたる同地の發達は意外に早かる可きか、今一昨年度に於ける商取引干係を見るに次の如し

移入	浦口より	全移入貨物の百分の九五
移出	浦口へ	全移出貨物の百分の九十
移入	濟南より	全移入貨物の百分の九五
移出	濟南へ	全移出貨物の百分の九十
移入	濟南より	同
移出	濟南へ	同
移入	砂糖、石油、綿布、綿糸、白米、麥粉、絹、毛織物、洋雜貨	
移出	棉花、木材中の桐材、石油、綿糸布等なるも將來落花生、鶏卵、砂糖、麥粉、洋雜貨等の諸取引に干し南方上海方面の取引範圍に侵入するも蓋し難事に非ざる可し、今大正八年度より濟南、徐州間鐵路運送貨物統計表を示すに左の如し	

濟南徐州間貨物發着數量表

(山東商社調)

發送貨

大正八年度

合計

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
石炭													三〇
石灰													二〇
煉瓦													一七
セメント													一七
木													五五
白米													五〇
落花生													一〇
麥粉													二五
陶器													一〇
品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
木													九〇
麻													二五
綿													一五
砂糖													一五
煙草													四八
魚類													一五
燐寸													一五
雜貨													二五
染料													一〇
藥材													一〇
白米													一〇
麥粉													一〇
陶磁器													一〇
豆油													一〇
セメント													一〇
高梁													一〇
麻袋													一〇
鐵貨													一〇
品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
セメント													一八〇
木													一八〇
燐寸													九〇
石													九〇
燐寸材料													九〇
鐵貨													九〇
高梁													九〇
麻袋													九〇
鐵貨													九〇
品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
豆													一五
麥粉													一五
煙草													一五
雜貨													一五
高梁													一五
鐵貨													一五
品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
豆													一五
麥粉													一五
煙草													一五
雜貨													一五
高梁													一五
鐵貨													一五

棉花	二〇
野菜	一〇
染料	一〇
藥材	一〇
煙草	一〇
雜貨	一〇
燐寸	一〇
其他	一〇

青島港輸出花生及生油雜觀

山東省はその氣候風土落花生の栽培に適せるを以つて到る處その産額を見ざるは無く殊に黄河以南大汶口泰安兗州を中心とする地方を第一とし南部臨沂魯州沂州等を中心とする地方是に亞げり、その他黄河流域より北部地方の禹城夏津一帯も相當の産出あり東部に於ては膠濟鐵道沿線及芝罘方面の極東部にも相當産出す今大正十三年九月より本年八月に到る滿一ヶ年間當港より積出せる落花生の輸出統計を各方面より考察せんとす

昨年九月より本年八月に到る滿一ヶ年間當港より積出せる落花生は穀付一六、五九九屯四分の三F A Q 九四、六一三屯四分の一選實四二、八八五屯にして生油は二四、四八〇屯四六に達せり

今更に各品種を月別につき調査するに

月	F A Q	選實	穀付	生油
九月	一五五〇	六七三	七四七	二七七九
十月	一〇七三	一五三〇	七三三	五三〇
十一月	一〇三三	一六三三	三三九	一三〇
十二月	一七二二	三三二	三〇七	一八八
一月	一七五〇	七三〇	二〇五〇	二九三
二月	五八八〇	三三〇	七九七	三七三
三月	七二〇〇	二二八〇	九七三	二〇四
四月	一三三〇	七三〇	八二二	三九〇
五月	七九〇〇	四七三	一三三	三九七
六月	五八四〇	四六〇	八四三	七九〇
七月	六〇三	九八〇	二七八	一八三
八月	三六〇	八〇〇	九五〇	一七三
合計	九四六	四八五	一六五九	二四四〇

仕向地より見たる統計

當港輸出花生及生油の仕向地を大別すれば日本仕向、米國仕向、歐州仕向及び南支仕向となり是等各地に仕向けるものはその用途に依り種類を異にせり、元來落花生の用途は極めて廣く落花生油の原料としては勿論普通脱殻せるものを味附け煎りて食用に供し粉末として菓子製造用に使用し又は歐米方面にては珈

球、アの代用品として本品を其原料に使用する由なり本品の成分が脂肪蛋白質を主とする點より多少製菓材料にも使用せられ下濟の製造原料として可なり好結果を齎すと云ふ、又落花生油は人乳酪模造乳酪の製造用その他石鹼製造用等用途極めて廣し、米國及び日本に仕向けらるる落花生は主として製菓材料に使用せらるるが故に選實の如き上等品を主とし歐洲に仕向けらるるものは搾油材料に使用せらるるが故に普通品以下を輸出せらるるものとす、花生油は米國又は歐洲に於て消費せらるるものは棉實油又は豆油等の代品として使用せらるるものなるが故に生油の相場が他品に比し安き時にのみ輸出せらるるも廣東方面の南支に輸出せらるるものは該地方の支那人が食料として特に花生油を賞味するが故に必ず生油たる事を要し従つて相場の如何に拘らず常に輸出を見るものなり

今各品種に付き仕向地別にその輸出數量を示すに左の如し

(自大正十三年九月至大正十四年八月)

仕向地	選實	殼付 F A Q	生油
バンクーバー	1,600 12	1,570 0	9,950 0
ポートランド	3,500 0	1,700 0	—
神戶	2,500 14	4,500 0	—
門司	3,000 12	4,700 0	—
大阪	1,100 14	1,150 14	—
大坂	1,200 14	1,150 14	—
横濱	1,200 14	1,150 14	—
宇品	700 14	—	—
桑市	2,600 12	—	—
沙市	9,000 12	—	—
熱田	2,700 12	—	—
紐育	2,500 14	—	—
タマ	1,000 0	—	—
Thiledgio	1,600 0	—	—
倫敦	2,700 12	—	—
上海、廣東	3,100 12	—	—
シドニー	1,500 0	—	—
ゼノア	8,600 0	—	—
トリエスト	4,500 0	—	—
安府	9,000 0	—	—
コンスタンチノブル	1,500 0	—	—
ポトサイド	1,600 0	—	—

取扱商より見たる統計

シヤイ	500	550 0
デンマーク	100	200 0
ボストン	500	—
Norton	100	—
ファイナルファイヤ	1,200	—
サンペドロ	1,800	—
アマステルダム	3,000	—
コペンハーゲン	3,000	—
漢堡	2,200 12	3,200 12
リバプール	700 0	—
マルセイユ	5,000 0	7,000 12
ロツテルダム	6,000 10	10,000 12
大連	10	5,600
ダンカーク	1,000	—
ハーバー	1,000	—
バルセロナ	2,600 0	—
パレンシア	1,000 0	—
マーシヤル	1,000	—
Castellon	1,000	—
フル	1,000	—
シンガポール	1,200 0	—
合計	38,600 0	66,600 34

相場上より見たる統計

九月	最高	最低	普通品	最高	最低	生油	最高	最低
十月	8,000	7,000	10,000	11,000	10,000	11,000	11,000	10,000
十一月	8,000	7,000	10,000	11,000	10,000	11,000	11,000	10,000
十二月	7,600	6,800	9,300	10,500	9,500	10,800	10,800	9,800
一月	7,600	6,800	9,300	10,500	9,500	10,800	10,800	9,800
二月	8,000	7,000	9,500	10,500	9,500	10,800	10,800	9,800
三月	8,000	7,000	9,500	10,500	9,500	10,800	10,800	9,800
四月	9,000	8,000	11,000	12,000	11,000	12,000	12,000	11,000
五月	9,000	8,000	11,000	12,000	11,000	12,000	12,000	11,000
六月	10,000	9,000	12,000	13,000	12,000	13,000	13,000	12,000
七月	9,000	8,000	11,000	12,000	11,000	12,000	12,000	11,000
八月	9,000	8,000	11,000	12,000	11,000	12,000	12,000	11,000
合計	9,000 34	8,000 34	11,000 34	12,000 34	11,000 34	12,000 34	12,000 34	11,000 34

取扱商 F A Q 選實 殼付 生油

取扱商	選實	殼付	生油
東和	500	—	—
小川	10	—	—
東昌	500	—	—
三井	5,000	—	—
三井	2,000	—	—
大杉	3,500	—	—
中川	500	—	—
培季	5,000 12	—	—
東榮	1,000 12	—	—
青澤	1,800	—	—
Union Trading	10	—	—
Kaufman	100	—	—

當地に於て落花生を取扱ふ商人は日本人の數に於て最上位を占むるも近年外商の蠶食著しく邦商が次第に苦境に陥りつつあるは事實なるが今最近一ケ年間の輸出せられたる花生及生油を取扱商別に就て見るに左の如し

### 張宗昌の金融整理方法

十二月の八元五十仙高低の差最も多きは十月の二元二十仙最も少きは九月の三十仙にして生油の最高は六月の二十五元最低十月及び十二月の十七元八十仙高低の差最も多きは八月の三元八十仙最も少きは七月の二十仙なりき

山東省銀行の成立後張宗昌は濟南紙幣統一の方法に對し積極進行を以てし以て省銀行發行の紙幣が漸次省内に流通せん事を期せしが數日前特に省長公署の名義を以て城内商埠の両商會に訓令を發し各銀行銀號發行の紙幣取締規則十四條を頒布したるがその大意を見るに「現在各銀行銀號發行する所の紙幣には統計なく資本確實なりや否やも詳かならず日久しくして弊生す、乃ち紙幣の濫發を以て營業の妙策となす、此が爲め毎年節關に逢ふ毎に兌換停止を行ひ又は破産するものあり商民の害を受くること實に鮮きに非ざるなり、此を以て今後財政司の許可を経ざるものは一概に紙幣の發行を許さず既に發行せるものは一年以内に完全に回収すべく財政部の許可を受けて紙幣の發行をなすものは六個月以内に六割の保證金を納付して省政府に預託し以て抵押に資すると共に濫發の幣を除くこと、各銀行は此に對して頗る恐慌を呈し早速兩商會に於て分別開會討論をなし以て抵制を謀らんとす、猶聞所によれば濟南に於て紙幣の發行をなす銀行銀號は合計二十餘家にして財政部の特許を経て發行するものは只中國、交通、邊業、中國實業、懋業銀行等にして其餘の山東商業、泰豐、公利、裕茂、惠通、當業、阜豐等十數家は總て財政部の特許を経ず將來一齊に收回すべきものにして其中山東商業泰豐公利の三軒は紙幣發行數最も大なるを以て將來何等かの危險發生すべきやも計られず

### 青島鮮牛肉輸出 (八月中)

青島鮮牛肉は定期三社船の外冷藏庫の設備を有する各汽船の回航を見るに及び始めて輸送の完全を保證せられたるものにして爾來日本の需要に對し夏期と冬期の區別無く輸出を續くるに至りたるものにして漸く青島牛肉の眞價は日本市場に普及せられ年々勢なからざる輸出を日本に送り來りしか昨年來日本市場に於ける蒙古牛の新輸入により稍其銳鋒を挫かれたる所に豊富なる濠州肉の襲來を受け輸出は漸次思はじからざる風潮を示し來りたる際に當り昨年九月膠濟貨捐の設けを受け産地高に稍商況を鈍らせ來りたる爲め本年上半期に於て二万四千頭の生肉と七百五十一頭の生牛輸出を見たるに過ぎず下半期に入りては更に不況を現

はし七月中三千七百九十五頭の輸出を見  
し八月は更に其度を濃厚ならしめ三千  
百二十三頭に下り年初以来の不況を現は  
し来れり其中特に目立ちたる減退を見せ  
たるは大阪東京、廣島門司等にして横濱  
行生牛は全然其姿を没したり此不況は主  
として内地需要の減退を現はしたるもの  
なれども鮮肉輸出に對する諸掛金の増加  
産地生牛一頭の護照料銀四元より十元五  
十銭に引上げられたる事實は現狀に於て  
さへ稍ともすれば産地相場の高値に壓倒  
せられんとする當市場を脅威せるものに  
して市況全く振はす只單に事業維持に努  
力するに過ぎず其外格別の理由を認むる  
能はず次に本月中の輸出數量を示せば左  
の如し

八月中輸出鮮牛肉數量

輸出先	數量	計
東京	一〇四頭	一〇四頭
横濱	一〇四頭	一〇四頭
名古屋	一〇四頭	一〇四頭
大阪	一〇四頭	一〇四頭
神戸	一〇四頭	一〇四頭
廣島	一〇四頭	一〇四頭
門司	一〇四頭	一〇四頭
若松	一〇四頭	一〇四頭
下關	一〇四頭	一〇四頭
宇品	一〇四頭	一〇四頭
大牟田	一〇四頭	一〇四頭
計	三三三頭	三三三頭

魚市場水揚高 (八月中)

八月中の魚市場水揚高を見るに日本人  
收穫は金一萬九千二百五十二圓三十四錢  
支那人收穫九千九百五十圓にして前  
月同様不振を現はせしが日本船漁獲は主  
として鯛、鰈、ハチ、モク、鰻、ニ、ス、  
キ等にして支那人漁獲はグチ、鰈、鰻等  
なるか其收穫は邦船の半に達せず由來支  
那船の漁業は邦船の如き完備せる設備な  
き爲め只近海漁業を爲すに止むるの同様  
なりしを以て其收穫勢なく其種類も亦制  
限せられ常に日本漁船收穫の十分一位を  
占むるに過ぎざりしか最近に至り漁具の  
改良等に意を用ひ來りたる爲め本月は前  
記の如く九千九百十圓を漁獲し近來稀な  
る記録を示せり左に本年一月以来の漁獲

高を邦船支那船に區別し比較すれば左の  
如し(單位金圓)

月別	日船漁獲	支那漁獲	合計
一月	一五九七三	九七三三	二五七〇六
二月	一六二五三	一〇三三三	二六五八六
三月	一八五三三	一〇三三三	二八八六六
四月	一五九三三	一〇三三三	二六二六六
五月	一五九三三	一〇三三三	二六二六六
六月	一五九三三	一〇三三三	二六二六六
七月	一五九三三	一〇三三三	二六二六六
八月	一五九三三	一〇三三三	二六二六六

膠濟鐵路營業狀況 (七月中)

膠濟鐵路七月中の營業は左記の如くに  
して乗客は二十九萬三千餘人前月より約  
一萬七千餘人の増加を示し貨物も亦十八  
萬一千餘屯にして前月に比し約六千屯の  
増加を現はしたるも其總收入のより見る  
ときは七十二萬七千六百二十一元にして  
前月に比し五萬二千餘元の減收を現すに  
至れり左に其比較表を示せば

膠濟鐵路營業狀況

項目	六月中	七月中
乗客	三六五三九人	三六五三九人
貨物	一七五二五八人	一八三〇八八人
運賃	五五三〇〇元	五八四一八元
雜收入	二七九四元	二七九四元
收入合計	七九六六元	七三三三三元

銀塊並爲替 (自九月廿一日)

前週末底意強調を報じたる倫敦銀塊は  
週初米國印度支那各筋の一齊買進みに市  
況更に硬化し一氣に六ポイント方の暴落  
を演じて直・先共に三十三片八分の一と  
なり尙一段の上昇を豫想せられたるが翌  
火曜日よりは買入の手控へ米國筋の賣  
氣に連日一ポイント方の降下を見金曜逐

に三十二片十六分の十五に落込みたり、  
此間印度筋の買氣ありたるも安値買とて  
市場を刺激するに至らざりしが週末に至  
り支那投機筋の現物買、先物賣のオペレ  
ーションと賣入薄の爲め急騰直三十三片  
八分の一先三十三片に引戻したり

爲替

前週末銀塊相場持直しと底意強調の  
報に週初三志三片、七十八分八分七、五  
十一兩八分の七買氣と一段の硬化を見せ  
引續き銀塊の昂騰に爲替は火曜日更に上  
向き三志三片八分の一、七十九分、五十  
一兩八分の三買氣を現出せるも支那銀行  
方面の値頃買に漸次軟化して同日午後再  
び三志三片、七十八分十六分の十三、五  
十二兩見當に下押したり、爾後銀塊相場  
の保合姿に唯支那人の振振りによる小幅  
の上一下を繰返すのみにて市場氣迷の  
態、結局三志二片八分の七、七十八分八  
分の五、五十二兩八分の一買氣配にて本  
週を終れり

金銀相場表

項目	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日
倫敦銀塊	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
紐約銀塊	七・七	七・七	七・七	七・七	七・七	七・七
上海銀塊	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
齊燕公所	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
取引	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
所銀	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三

爲替相場表

項目	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日
英米爲替	四四・四	四四・四	四四・四	四四・四	四四・四	四四・四
正金日本向	一三・三	一三・三	一三・三	一三・三	一三・三	一三・三
倫敦向	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
米國向	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
上海向	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
天津向	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三
滿州向	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三	三三・三

商況 (自九月廿一日)

重要商品市況  
綿糸布 前週氣配好轉の跡週初更に  
難縣筋の二十手買濟筋の十六手買旺盛  
にして問屋筋又幾分思感買進みしが上海  
大阪両市場の軟弱氣配を眺め一方統捐稅

問題にて俄然氣配悪化して週末に至る迄  
問屋筋の難氣投げ物重複して相場崩落懸  
の安値を下廻るに至り特に三十二手は在  
荷の漸増と目先買行見込薄くして買氣更  
になし、唯週末營口筋の買進み見せし  
同地行適品のみは賣物薄く僅かに五百件  
見當の商談に留まりたり  
綿布は小口乍ら粗布現物の買物見せし  
が阪地安に相場伸縮む

石

炭 上海方面の引合は相當頻繁  
に活氣あるも支那人日本人合せて二、三  
万噸の契約出來尙引合中のものも相當に  
ある模様なり、内地方面は爲替高のため  
上海方面程活況を呈するに至らず、輸入  
炭はその後以前よりの貯炭相當にあり且  
撫順炭の輸入弗々あるため日本炭の輸入  
少し、地賣炭は未だ時期に非るも追々需  
要期を据へ買氣弗々萌せり  
週間當港積出は博山炭五、九〇〇噸(中  
三千噸は廣東行)淄川炭二、二〇〇噸(中  
炭は博山炭一、一七〇噸なり)

花生及生油

殼無落花生石島物九  
元九十仙より十元見當にて三百七十俵の  
手合せあり廣東邦が買付けしのみなり、  
殼付花生は新物出始め相六元乃至七元  
六十仙にて大杉、三菱、泰利、吉澤等買付  
約九百俵の手合せあり、猶豊作のため相  
場は先安見込、生油は廿一元六十仙より  
八十仙に上げ十九元丁度以下押せるも週  
末再び廿一元丁度となる、甚だ波瀾に富  
める商狀を呈す、全部廣東邦の買にて四  
十車の手合せあり仲秋輸出季當と定期に  
荷渡するもの、買手當らし、殼無先物十  
一月渡九元十五仙より十仙、十二月一日  
限は九元〇五仙より九元爲替不利と歐米  
買聲を擧げざるため輸出買見送りの態  
なり、且つ弗々新物の出廻期近づきた  
め賣入あせりそれがため値段下る、殼付  
及生油は先物商内なし

麥粉及麩

綠鹿週初三元二十仙週央  
二十五仙週末廿八仙綠兵船週初三元廿二  
仙週央廿仙週末廿二仙綠ダイヤ週初三元  
廿六仙週央廿九仙週末廿一仙、仲秋節前  
にて管需筋が小口買漁りのため相場多少  
上押せるも他の農作物豊作のため先安見  
込なり、穀は内地方面大部買氣出現し來  
れるも十一月一日より輸出稅の一割を徵  
し且つ他の諸種の稅金を加算する時は到  
底引合はず上海大連方面より輸入され當  
地よりは輸出出來す

糖

市況變りなく内地ジャワ方  
面下押歩調のため當地も値段出でず、こ  
の頃爲替が一寸安くなりかけたれど一般  
の氣配に押され取引も活潑ならず値段變  
りなく目星しき商内もなく本週を終る

鶏卵

出廻り多少良好となりしも  
外商との競争買付猛烈にして相場は強調  
の一路を辿り十六元乃至十八元見當唱へ  
一方内地は相當買氣をひそむもの、如き  
もかくの如き相場にては到底出合はず、  
週央見當相場大二十三元中二十元小十  
七八元

肉

當地は愈々農繁期を脱して  
出廻り多少増加廿三日より買付協定値段  
を廢し自由買付となせるが相場は上十四  
仙五厘中十三仙五厘下十二仙五厘見當内  
地は一寸買氣一服の商狀

取引所市況

前週末より三十錢安の一三九四〇五錢に始り寸進  
尺退の歩調に推移週央一四四四に反撥四十四見當小  
往來にて本週を終る

錢鈔

殼無花生十二月限廿六日九元十三仙にて一車の手  
合せありしのみ、生油九月限週初廿元三十仙週央十  
九元八十仙週末十八元九十仙九月廿三日納會受渡數  
量廿五車、一月限週初十八元五十五仙週央十八元五  
十仙週末十八元三十仙見當花生の安値に押されて自  
然安くなりなり

綿糸

現物市場の安定にも不拘依然不済の商狀にて前週  
末より二分五分安の一六九兩丁度に始まり不活潑商  
内海に推移週央安値は遂に一六五兩二五を覗き爾后  
手仕舞商内の連續的に行はる、結果釣瓶落しに引下  
げ週末遂に一六二兩の安値を覗くに至る

寄贈書類 (自九月廿一日) (至九月廿六日)

一、朝鮮經濟雜誌第一二六號 京 商業會議所  
二、港 海 第六號 港 協 會

一、會員名簿 平 壤 商 業 會 議 所  
二、實業日報 報 社

一、月 報 第三六號 濱 松 商 業 會 議 所  
二、外情報 第一二二號 濠 洲 總 督 官 房

編輯兼 島 津 忠 男  
發行人 青島印刷株式會社

經濟週報第百二二號附錄  
青島港輸出入貿易品

(大正十四年八月中)

二膠海關貿易統計二

輸入外國品

品名	單位	日本	英國	米國	香港	其他外國	上海	大連	其他支那港	合計
(生綿織品)										
生巾	反	2.470					100			2.570
同(米品)	"						40			40
同(英品)	"									
同(日本品)	"	6.240								6.240
同(米品)	"									
同(英品)	"									
同(日本品)	"	300								300
同(英品)	"									
同(日本品)	"	4.65								4.650
同(米品)	"	200								200
晒金巾及シネチンゲ	"	3.485								3.485
晒雲齊及シネチンゲ	"									
同(日本品)	"	3								3
同(英品)	"						575			575
同(日本品)	"	20								20
薄地命寒冷紗モスリン等	"	22								22
染蘭網(幅30吋長33碼以下)	"	3.780								3.780
染雲齊及シネチンゲ	"	5.865								5.865
染緋金巾及シネチンゲ	"	3.900								3.900
サティーン・イタリアン・模造ベネチアン	"	1.860					80			1.860
天津斜紋	"	30					30			60
斜紋	"	30					40			70
斜紋	"	30					90			120
斜紋	"						390			390
斜紋	"									
ボウエネテイン	"	240					20			260
晒染(捺染綿織品)	"	1.213								1.213
捺染薄地金巾・寒冷紗モスリン等	"	21.875								21.875
捺染綿織子イタリアン紋吳羅等	"									
(棉花・綿織糸・綿糸及綿織品)										
綿手巾	打担	280					40			320
綿縫	哥担	29.412					885			30.297
綿同	担	1.032								1.032
新(亞麻・大麻・及黃麻製品)	袋	5.789								5.789
(交絹麻品)		1.338			104					1.442
絹混織子	斤	1.980								1.980
毛(羊毛及毛織品)	反担						61			61
眞鋼未鐵	"	20					4			24
鍍金片	"	25								25
鍍金片	"	11								11
鐵片及鋼線	"	420				93	977			1,490
鐵片及鋼線	"	170					1,745			1,915
鐵上鐵錫	"	170					361			361
記以片	"	5.641				375	422			967
釘外及古鐵	"	359				796				6,437
釘外及古鐵	"	32	900			875	531			1,765
鐵鋼器亞鉛	"						622			1,554
具鉛塊	"	3					7			7
釘引	"	1					2			5
鐵製	"	1,155					1			2
鉛塊	"	10					121			1,276
銅及貨イダ	"						52			62
洋類	"									
白麥酒	打担	255				1,280	758			2,293
蠟洋木	哥担	1.508					2			2
燭灰	"	9					42			42
炭	"	1,995			1,754		14			2,009
磁紙時石干	價千本價屯担	42								1,796
卷煙	"	114								114
器草計炭貝	"	3,637				94	234	8		3,973
料藍藍鉛	"	42				72	3,602		60	3,734
價担	"	6				397	312			751
染體	"	52					1			14
液	"					2,334	12,779	572	2,141	17,878
白	"						1,863			1,863
氣	"	10,191	1,000				5			6
	"					324	2,285			14,780

染地	繭	網	(幅30吋長33碼以下)	3.780						3.780
染雲	齊	及	シ	5.865						5.865
緋金	巾	及	シ	3.900						3.900
綿綿	製	及	シ	1.860						1.860
サ	イ	タ	リ						80	80
天	津	斜	織	30					30	60
斜	織	及	サ	30					40	70
斜	織	及	サ	30					90	120
十	字	織	斜						390	390
綿	繭	子	織							
經	綿	織	木							
ボ	リ	ン	及							
ウ	エ	ネ	フ	240					20	260
晒	染	綿	織	1.213						1.213
	(捺	染	綿							
捺	薄	地	巾	21.875						21.875
	金	巾	等							
捺	染	綿	子							
	(棉	花	綿							
綿	手	縫	巾	280					40	320
綿	縫	系	花	29.412					88.5	30.297
綿	縫	系	系	1.032						1.032
綿	同	系	(印							
新	(亞	麻	及	5.789						5.789
	舊	麻	製							
絹	(交	網	品)	1.338		104				1.442
毛	綿	混	織	1.980						1.980
毛	(羊	毛	織							
	金	屬	石)							
眞	鍍	片	及	20					4	24
眞	鍍	片	針	25						25
未	鍍	片	及	11						11
鐵	金	片	鋼	420		93			977	1,490
	片	鐵	線	170					1,745	1,915
鐵	記	以	釘	170					361	361
上	外	片	古	5.641		375			422	967
鐵	記	以	鐵	359		796				6,437
錫	記	以	金	32	900				531	1,765
	記	以	鐵						622	1,554
鐵	具	釘	製	3					7	7
鋼	釘	塊	鐵	1					2	5
器	釘	塊	造	1,155					121	1,276
亞	釘	塊	鐵	10					52	62
鉛	釘	塊	條							
白	銅	及	洋							
麥	(雜	サ	類)	255		1,280			758	2,293
海	酒	サ	一						2	2
バ	酒	サ	一						42	42
蠟	洋	米	燭	1,508						1,508
洋	米	燭	灰	9						9
木	米	燭	炭	1,995		1,754			14	2,009
	米	燭	炭	42						1,796
磁	紙	時	器	114						114
紙	時	石	草	3,637		94			234	3,973
石	時	石	計			72			3,602	3,734
干	時	石	炭	42		397			312	751
	時	石	炭	6					1	14
ア	二	リ	染	52		2,334			12,779	17,878
人	造	液	體							
人	造	液	體	1					1,863	1,863
赤	氣	器	材	10,191	1,000	324			3,265	14,780
電	氣	器	材						5	6
珠	瑯	引	器	741					10	751
麥	子	及	水	5,176					5	5,181
硝	子	及	晶	618		10			64	711
燈	火	用	器	6					369	375
	火	用	(電	330		3,463			1,726	5,602
	火	用	燈						83	
燐	席		寸	2,800					100	2,900
煉	及	器	乳	28,320					120	28,440
手	發	械	針						62	62
揮	及	油	類	22,025					500	22,525
箱	入	米	石							
米	石	油	(裸)							
日	石	油	(箱							
同	石	油	入)							
ス	石	油	(裸)							
	石	油	(箱							
	石	油	入)							
同			(裸)							
滑	物		油	2,890					18,591	21,957
甘	通	印	桶						23	23
普	通	印	紙	455					114	585
紙	通	印	紙	846					664	1,510
	通	印	(主							
	通	印	=							
包	裝		紙	887		433			15	32
印	(パ	ル	ノ)	281					15	296
胡	入	日	椒							
標	入	日	酒	222						222
昆	入	日	類	1,445						1,445
	入	日	類							
石	鹼	(洗	價	543		3			3	546
同	鹼	濯	担	979					1,929	3,046
曹	性	用)	價	938					138	938
曹	達	化)	担	37					50	87
曹	達	粧	價	277						322
	達	物	担							
醫	調	製	價	94						94
藥	調	製	担	333						333
赤	砂		担							
白	砂		担	2,299		3,640				3,688
太	白		担	13,574		1,032			2,295	5,826
	白		担							13,574
氷	茶		同	600						678
	茶		同	30						35
木	材	(堅	千	763						774
同	材	軟)	立	4,000	480	1,015				5,552
野	材	軟)	方	287						287
ワ	材	軟)	呎	458						998
	材	軟)	担							
	材	軟)	担							

輸入支那品

品名	單位	上海	芝罘	大連	其他	合計
シ雲土花	反担反	1820				1820
(綿製品類)		150				150
子齊布	(上海)	2				2
色土布	(上海)	590				590
綿	担	462				462
(雜貨類)		878			52	930
砒麻竹	石袋	10,000				10,000
竹	篾	180		220		400
豆書蠟	筒	580		332		912
高玉小磁	米蜀	32				32
紙石棉紙小	麥粉機	2,392		1,452		3,844
夏同藥桐紙	布	52				52
同錫紙糖三	蒸	42				42
生同同石麥	絲	219		900		1,149
砂同木同	茶材			125		125
同同煙木	草	17,877				17,877
獸	骨	729	24	2		755
山コ棉綿	炭			1,534	200	1,734
黑蛋蛋鷓鴣	錫	3,815			1,031	4,846
果硝落落	物子	11,998		138		12,136
花花生	花	19				19
		5				5
		91	6			97
		785				785
		428			229	657
		5,001			611	5,612
		583	118		210	911
		360	271			631
		396	5			401
		81		68		149
		150				150
		139				139
		1,209				1,209
		918				918
		2,965			499	4,464
				14,926	43,234	58,160
				1,894	19,203	21,097
					11,911	11,911
		12				12
		49				49

輸出支那品

品名	單位	日本	米國	英國	香港	其他外國	大連	上海	其他支那港	合計
生豆黃牛麥	頭担	32					101			133
獸	骨									
銅豚セ	塊毛ト	13,651								13,651
山コ棉綿	炭ス花糸	10					10,440	950	600	12,000
黑蛋蛋鷓鴣	棗白黃卵魚	4,092								4,092
果硝落落	鮮品粕生仁	16,820							20	16,820
		650								670
			204	202		58				464
		8,141	4		535		140	19,180	7,135	35,135
		679					131	705	200	1,715
		2,859					1,489			4,348
							10,962	1,891	4,306	17,159
					363			291		654
								54		54
						36				36
		8	74			11				93
		1,086								1,086
		2			16			2,674		2,692
					88			137	50	275
		2,836								2,836
		228		3,276		9,123				12,627
		12,870			740	2,100	99	3,710	33,096	52,615

